



園長のひとりごと

自己肯定感を育む

先日 A ちゃんが、はやる気持ちをやっと言葉に載せて前のめりに相談するように言いにきました。

「あのさ、みかん狩りで……たくさんのおさ……、美味しいみかんをくれたからさ……、お手紙どう？」とうまく文章になりません。けれど自分の気持ちをいっぱいに入れて伝えてくれました。私は大いに嬉しくて「そうしてちょうだい！」と答えました。（その後、A ちゃんが書いたお手紙をみかん園に送りました。）A ちゃんには自尊感情が備わっているからこそ他者を讃えることができ、その気持ちを素直に行動にうつしたことが嬉しかったのです。一つの事例ではありますが、そのような光景が箇所箇所に見られる事があり、優しい明照っ子の雰囲気も溢れています。

「自己肯定感を育む」とはよく言われる言葉ですが、なぜそれが必要なのか、園でも大切にしている言葉なのでお伝えさせていただきます。

それは自尊感情のある子は“粘り強く、あきらめずにやり抜く力”を身に付けていくと思われるからです。中学生、高校生になった時に途中で投げ出したりする事になると、結局本人も家族も辛い思いをし、いずれにしても乗り越えていかざるを得ません。

当然、誰でも人生は「スーッ」とまっ直ぐに、何も問題なくいく事はありませんし、落ち込む事もあります。しかしそんな時こそ淡々と堪えて、乗り越えるべき壁をクリアしていった時、精神的な成長と共に「人間力」が磨かれ、違う景色、価値観が見えてくるのだと思います。

それには、幼児期がとても大事であります。

そのためにも、園ではその子がどんな事に苦労して、そしてできるようになったかという事だけでなく、取り組む姿勢や意欲も正しく評価して、そのときどきに合ったポジティブな応答をしています。

また一方、叱らなければならない時は、そのタイミングにきちんと諭していきます。大人が真心を持った態度で接していけば、それは通じていきます。それらをセットにして、自己肯定感が育まれるのではないかと考えております。また、子どもたちは吸収力がある高い資質をもっています。そこから大人も教わる事が多々ありますね。そうして共育しながら大人も一緒に自己肯定感を育てていけるのでしよう。

いよいよ師走に入ります。寒暖差は大きいですが、体を温める食事を摂っておゆうぎ会に備えていしましょう。当日のご協力をよろしくお願いいたします。

楽しみにお待ちしております。

2023年12月

園長 杉田雅美

